

あなたはこんな風に思っていないませんか？

「障がいのある人とどう接していいかわからない」と。

障がい者と健常者を隔てる壁。

それは何故できるのか。

どうすれば超えられるのか。



障がいを越えて



障がいを**超**えて。

果たして障がいを超えるのは誰ですか？

| | | |
|---------------|------------------|-----|
| 上映時間 / 30分 | 価格 / 66,000円(税抜) | DVD |
| 字幕版・副音声版 同時収録 | 商品コード / C#3138 | |

 東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17 <http://www.toei.co.jp/edu/>

障がい者は、自分とは違う世界の人——。

自分とは違う存在や理解しにくい相手を恐れ、排除してしまう…

そんな「心のバリア」を、あなたも感じたことはないですか？

このビデオに出ている人たちの多くも、最初は壁を感じていました。

しかし相手に向かって一歩踏み出すことで、

必ず壁には穴があき、そこから新しい景色が見える…

そんな三つの事例を追いかけてきました。



CHAPTER 1

聞こえないから、伝わらない？

こころおと

Kokorooto



ろう者・聴者混合の手話バンド「こころおと」は2000年結成、メンバー数総勢11名。メンバーのKuniさんとまゆさんは、聴覚に障がいを持つボーカリスト。彼女たちは手話によって、ボーカルとペアで『うた』を伝える。カメラは彼らの練習風景とライブに密着。リーダーの武井誠さんはこう語る。「手話に寄りすぎると音が、音に寄りすぎると手話のクオリティが下がってしまう。どっちかか気を使っているのはダメ。対等な立場で、どちらのクオリティも落とさず、最高の『うた』をつくりあげていきたい」

CHAPTER 2

彼女はなぜ踊るのか

ジェネシス オブ エンターテインメント

Genesis of Entertainment



1997年に結成されたこの車いすダンスグループは、学校の体育館からパラリンピックイベントまで、全国各地で車いすダンスとその意義を伝えつづけている。ダンサーの林美穂さんは3才から車いすの生活。負けず嫌いで人見知りの彼女は「何のために踊るのか」を模索し続けてきた。会社員でもある林さんの同僚や上司は、職場やプライベートで少しずつ交流を重ねながら、戸惑いを解消し、ダンサーとしての彼女に尊敬の念を得たことを、カメラの前で語る。林さんはこう語る。「『私自身』を伝えていくことで、障がいのイメージを変えていきたい」

CHAPTER 3

あなたがもし視覚を失ったら？

ダイアログ・ イン・ザ・ダーク

DIALOG IN THE DARK



東京・表参道にある常設イベント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」が人気だ。日本語に訳すと「暗闇の中の対話」。参加者は完全に光が遮断された建物の中で視覚障がい者の案内の元、様々な体験をする。参加者は視覚に頼らず全身で今いる世界を感じとっていき、コミュニケーションの概念が大きく変わる。また暗闇の案内者である江場将之さんも、参加者と暗闇で語り合うことで見えてきたものがあるという。見える人が見えない人に、見えない人が見える人に。それはお互いを理解することへとつながる…



ナレーター 田畑 智子

1992年、映画『お引越し』で主演女優としてデビュー。2000年、NHK朝の連続テレビ小説「私の青空」のヒロインを務める。映画、ドラマ、舞台と多数の作品で活躍する、コミカルからシリアスまでこなす本格派女優。2013年、映画「くちづけ」では、兄が知的障がい者ということが原因で婚約を破棄されるという難役を見事に演じる。また、ナレーターとしても「ドキュメント72時間」(NHK総合)、「世界ふれあい街歩き」(NHK-BSプレミアム)など、多くの作品を担当している。